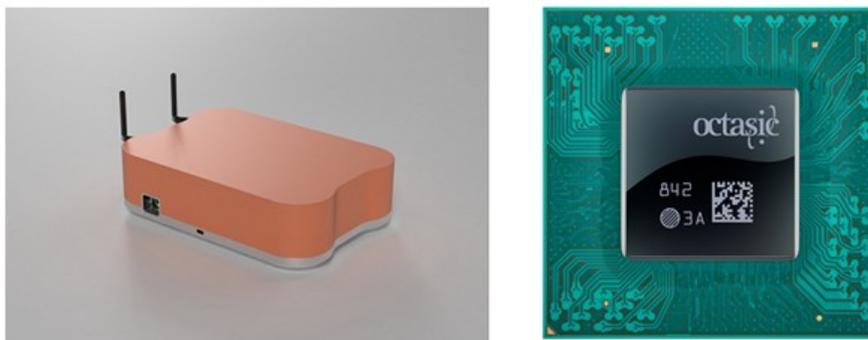


パナソニックとOctasic社が、5G/Beyond 5Gに向けた共同開発に合意



無線基地局（左）と新世代システムオンチップ（右）（イメージ）

パナソニック株式会社（本社：大阪府門真市、以下「パナソニック」）とOctasic Inc.（本社：カナダ ケベック州 モントリオール、以下「Octasic」）は、従来からのsXGP (shared eXtended Global Platform)*1などのプライベート4Gシステム開発の枠組みを拡大し、5Gとその高度化技術であるBeyond 5Gの共同開発に合意しました。

本共同開発では、Octasicの新世代システムオンチップであるOCT3032上に、両社のリソースと専門知識を掛け合わせ、5Gとその高度化技術を搭載した高信頼、低遅延および低消費電力の無線基地局プラットフォームを開発します。これにより、B2Bや航空業界向け非地上ネットワーク、その他のミッションクリティカルな業界への適用を目指してまいります。

【背景】

5Gは高速大容量通信に加え、多数同時接続や超低遅延の特徴を有し、あらゆるモノ・人などを安全に低コストで繋ぐことができ、企業のビジネス構造のデジタルトランスフォーメーションを加速させます。さらに、日本においては企業や自治体などが、個別ニーズに応じて敷地内で柔軟に自営の5Gネットワークを構築できるローカル5Gの制度も整備され、その期待が高まりつつあります。

これまでパナソニックは、Octasicのシステムオンチップに組み込まれた非同期マルチコアを最大限に活用して、OctasicのLTE物理層ソフトウェアをsXGP向けに拡張し、免許不要帯域での干渉が大きい環境でも安定した通信を実現するsXGPシステムを開発し、無人自動バレーパーキングシステムなどに利用してまいりました。

【今回の共同開発について】

これまでの取り組みに加え、5Gとその高度化技術に向けて、両社は互いに得意な技術を掛け合わせ、特に低遅延保証が求められる高度なIoT環境や非地上運用に貢献する無線基地局プラットフォームの共同開発を進めてまいります。

Octasicのオープンでプログラマブルなプロセッサプラットフォームは、独自の非同期マルチコアを搭載しており、パナソニックの無線基地局開発における高性能、低消費電力、ソフトウェアによる拡張性の要件を満たします。

パナソニックは移動通信技術分野における豊富な技術資源をOctasicに提供し、迅速に3GPP準拠の超信頼性低遅延通信（UR-LLC*2）機能の開発や非地上通信ネットワーク技術開発を進めてまいります。これにより、両社が相互にビジネス展開ができるプラットフォームを構築します。また今後は、社内外実証を通じて様々なIoTアプリケーションの検証を行いながら、当社ならびにお客様のデジタルトランスフォーメーションを加速してまいります。

*1 sXGP: 日本国内において1.9 GHz周波数帯を使用した自営通信用TD-LTE規格

*2 UR-LLC: Ultra-Reliable and Low Latency Communications

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。